

〈インタビュー〉

文教大学

阿野幸一 先生

2019年 TOEIC Bridge® Test
4技能化によせて

授業風景が変わる Everyday Englishの 4技能試験

2019年にリデザインが予定されている TOEIC Bridge® Test。Everyday Englishを問うオーセンティックなテストという側面は変わらず、従来の Listening・Readingが、SNSなどのより現実生活に即した場面に刷新され、新しく Speaking・Writingタスクが加わり4技能化されます。

本号では、英語教育学を専門に教員養成や教員研修に携わられている文教大学の阿野幸一先生に、TOEIC Bridge® Testの活用を見すえた学校の英語教育についてお話をうかがいました。

4技能試験導入で授業風景が変わる可能性

—TOEIC Bridge® Testは、来年4技能化のリデザインが予定されています。外部試験の4技能化について、どんな波及効果があるとお考えでしょうか。

阿野◆まず、大学入試は高校の授業に非常に大きな影響がありますから、どのような形であっても4技能入試は導入した方が良くと思います。大学入試センター試験にリスニングが導入された時も、リスニング指導が教室で行われるようになり、効果的な指導を考える段階までは少し時間がかかりました。それを踏まえて考えると、話す・書くというアウトプットの技能についても、すぐにはどんなふうを書くか、どう英文を組み立てて話すかということまで指導できなくても、話す・書くという活動を先生方が始めて、それが定期試験にも出題されることで、教室の風景は変わってくるのではないかと思います。

そうした際にも、ある表現がどのようなコンテキストで使われるかを意識して教えることが必要です。例えば“Do you like *okonomiyaki*?”と言った時に、“Yes, I do.”と答えるシチュエーションは実はあまりありません。「何を食べに行こうか。焼き肉にしようか、ラーメンにしようか、お好み焼きにしようか」という話の流れのなかで、“Do you like *okonomiyaki*?”と言ったら、“Oh, sounds good.”とか“That’s a good idea!”というような返答が自然な会話になりますよね。そうなれば、生徒は形として学習した“Yes, I do.”という受け答えだけでなく、文脈に沿った自然な表現に触れることができるでしょう。

TOEIC Bridge® Testの 特長

TOEIC® Listening & Reading Testへの架け橋として、初中級レベルの指標となります。「ジュニア向け」という位置づけではなく、誰もが受けられる英語テストとして日常生活に根差した基礎的な英語能力を測定します。

TOEIC® Programが扱う 内容

TOEIC® Programでは日常生活やグローバルビジネスでの場面を想定した幅広い内容を扱っています。いわゆる「ビジネス英語」の知識を問うものではありません。

時代と歩んだ

TOEIC® Programの変遷

- 1979年12月
TOEIC® L & R スタート
- 2001年11月
TOEIC Bridge® Test スタート
- 2006年5月
TOEIC® L & R リデザイン
- 2007年1月
TOEIC® S & W スタート
- 2016年5月
TOEIC® L & R 新形式 スタート
- 2019年
TOEIC Bridge® Test リデザイン

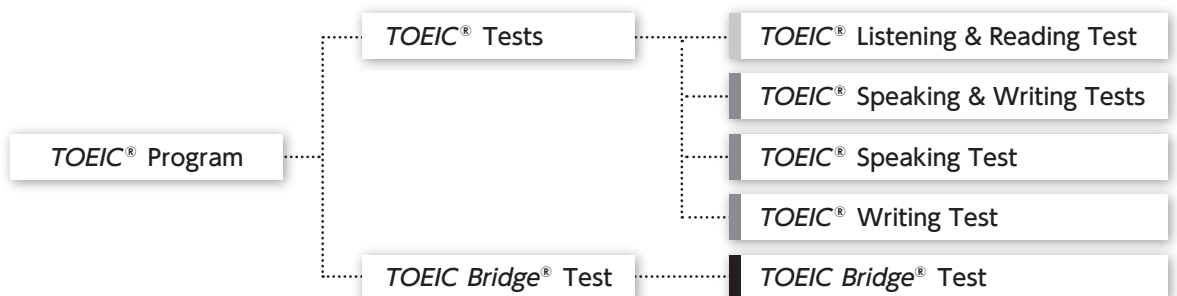
TOEIC® Speaking & Writing Testsの評価方針

英語の正確性ではなく、適切なコミュニケーションとして、問いの文脈との関連性や、発音や文法、語彙の活用が有効であるか障害となったかを評価します。

TOEIC® Programの対象

世界160カ国、年間約700万人が受験。日常やグローバルビジネスにおける英語コミュニケーション能力を問うテストとして、全世界の方々を対象に開発されています。

▼ TOEIC® Programの体系図



外部試験でこそ測れる英語の実力

——外部試験というとスコアを上げることに関心が集まりがちですが…。

阿野◆大学で英語の教職課程をもっていますが、ゼミの学生たちもみんな教員採用試験のために、TOEIC® Testsのスコアを上げようと一生懸命問題集などを使って勉強しています。それである程度スコアはアップするようですが、その先が伸び悩む学生にいつも言うのは、「スコア対策のための勉強はやめたらどう？その時間があれば、もっと英語を聴いたり、読んだりした方が良いよ。その結果として身についた英語力の1つの証明になるのがTOEIC® Testsのスコアなんだよ」ということ。面白いもので、英字新聞を読んだり、e-learning教材を使って勉強を始めると本当にスコアが上がるんです。

授業にも参考になる TOEIC Bridge® Testの言語使用場面と評価方法

——TOEIC Bridge® Testのような外部試験の問題形式などから現場の先生方が学べることはあるでしょうか。

阿野◆大学入試の4技能化の流れを考えると、今後、授業のなかに話す活動なども入れなくてはいけなくなります。その際、TOEIC Bridge® Testのように日常のさまざまな場面で話したり書いたりする形を示されると、先生方ももっと取り組みやすくなると思います。新しい学習指導要領でも言語活動の項目で、eメールを書くといった具体的な使用場面が数多く挙げられています。そういうものとも日常生活に即したTOEIC Bridge® Testの設問はマッチしていますね。

特にライティングに関しては、生徒の作文はまとまりがなかったり、文法などのミスが多かったりすることがあります。その時に1文単位で正確さだけを評価すると、文全体のメッセージが伝わりません。TOEIC® Speaking & Writing Testsの場合は、文法などの個別のミスにかかわらず、書いたことが伝わるかどうか評価されるので、先生方が評価を考える際にも参考になると思います。

今後の授業と試験のあるべき関係は

——先生方が定期試験などを作成する際のアドバイスはありますか？

阿野◆最近、こんなふうにしたら生徒のモチベーションが上がるとか、学習指

導要領にこう書かれているからこう指導するとか、指導法について研究して授業改善にがんばって取り組まれている先生方がだいぶ増えてきた気がします。ただ、指導法は変化しているのですが、一方で試験問題は全然変わらないという先生が多い。例えば「受け身」を定着させるための授業で、自分たちの大切なものや買ったものを紹介しながら、この商品はどこで作られて、どこで売られているなど、人の主語を使わないで言えるような使用場面を作って「受け身」の言語活動の指導を行っていても、試験になると空欄に「be動詞+過去分詞」を書かせるような問題を出している。たぶん、先生方自身も新しい指導と試験問題がうまく結びつかずあまりイメージができていないのでしょうか。

その点、TOEIC Bridge® Testでは日常生活に即した場面設定がなされていますし、内容的にも中学校で習う英語を身に付けていれば日常英語に十分対応できるという証明になるのではないかと思います。

最近、先生方の研修で、I'm playing tennis.という表現をどういう時に使うか聞いたたら、すぐに返ってきた答えは「テニスをしている時」でした。でもテニスをしている時に友だちが通りがかって、「Hi, I'm playing tennis.」とは言わないですよね？他にも「電話しながらの発言」と答える先生がいましたが、電話はかける方か受ける方によって意味が違ってきます。電話をかける場合は、例えばテニスをする時に友だちに電話をして“I'm playing tennis. ”と言ったら、“Please join us. ”(来ない?)という試合やダブルスに誘う表現になります。逆に、テニスをしている時に電話がかかってきて、買い物に誘われた時に“I'm playing tennis. ”と言うのは、「だから行けない」という断る表現になります。

このように同じ表現でも場面設定によって言葉の機能が異なるため、コンテキストに応じた理解が必要です。定期試験などでそのような側面まで扱えるとよりコミュニケーションに即した指導になると思います。TOEIC Bridge® Testのような日常生活の場面に根ざしたコミュニカティブなテストは、先生方の指導と評価の視点を変えていくきっかけになるのではないのでしょうか。

現在、中高の各学校ではCAN-DOリストを作ることになっていますが、その際の大きな注意点は、それぞれ行動に根ざした使用場面や言葉の機能を習得するという目標を達成させるように授業を組み立てることです。TOEIC Bridge® Testの設問は、CAN-DOリストに書かれているものをどう出題して、どう評価したら良いか悩んでいる先生方にも相当参考になると思います。生徒たちにしてもSNSのやり取りの設問など、いまの子どものたちの日常生活に近いコンテキストが設定されていますから、学習した英語と実際の場面がつながることで英語に対する意識が変わっていくと思います。(2018年8月、於：大修館書店)



阿野幸一(あのこういち)

文教大学国際学部国際理解学科教授、同大学院国際学研究科教授。専門は英語教育(主に中学校・高等学校での指導方法)、応用言語学。早稲田大学大学院教育学研究科修了。主な著書は『日々の英語授業にひと工夫』(共著、大修館書店)、『NHK基礎英語 使いこなし中学英文法～「シチュエーション」で要点をつかむ』(NHK出版)他多数。TV、ラジオの教育番組に多数出演。文部科学省検定教科書編修にも携わる。

ETS, the ETS logo, PROPELL, TOEIC and TOEIC BRIDGE are registered trademarks of Educational Testing Service, Princeton, New Jersey, U.S.A., and used in Japan under license.

TOEIC® Programについてのお問い合わせ先

IIBC 一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会

公式サイト▶<https://www.iibc-global.org/> TEL▶03-5521-5012 FAX▶03-3581-5512 *土・日・祝・年末年始を除く10:00~17:00